

速報：8月1日刊行されたペリー・ローダン2450話ダイジェスト

Robert Feldhoff

■エヴォラクス Evolux

時間航行艦《ジュール・ヴェルヌ》——

「全長2400mの、垂鈴型」

「直径800mのアポロ級球形艦《JV1》と《JV2》を～」

「全長800mの円柱状の中央艦体で、繋いだ形」

「総重量1億8700万トン」

「中央艦体に搭載した、高次な技術〈文脈改竄機〉で～」

「2000万年前の、銀河系＝ファリスケ・エリゴン銀河へ～」

「ハイパー物理学的抵抗前の、高性能な超光速航行で～」

「距離4500万光年の、タレ・シャルム銀河へ」

「そして、今～」

「満身創痍の《ジュール・ヴェルヌ》は～」

「——緊急〈文脈跳躍〉っ」

「——帰るのだ、新銀河暦1346年4月19日につ」

「で」

「2000万年未来に、帰還する乗員、およそ3500名」

「指揮するのは、自由テラナー連盟、政庁首席ペリー・ローダン」

「政庁次官モンドラ・ダイヤモンド」

「グッキー」

「アラスカ・シェーデレーア」

「イホ・トロト」

「などなど」

「で」

「2000万年未来に、連れて行かれる客人、およそ200名」

「エカトウス・アティモス殿——もと、〈混沌の勢力〉の大佐殿」

「サイプロン種族のスフェリカー、4名」

「首領ボタウク以下、泥棒種族ラオソール200名と少し」

「直前に救助した……はずの、〈秩序の勢力〉の女将軍カムコさん」

新銀河暦1346年4月19日（のはず）、タレ・シャルム銀河中心部——

「——はっ」

「意識回復一等賞は、質実剛健なハルト人、イホ・トロト」

「つづいて～」

「気力で回復、エルトルス人、エプサル人、と、ペリー・ローダン」

「——ううっ」

「文脈跳躍の、ストレンジネス衝撃は～」

「生体にも、機械にも、正直しんどい」

「——ぶーん」

「《ジュール・ヴェルヌ》の艦載脳、〈ネモ〉は～」

「文脈跳躍の、直前に～」

「シントロニクスから、生体ポジトロニクスに、自己換装済」

「周囲の情報など、着実に司令室に届けはじめます」

「ここは～」

「2000万年前、超知性体アルケティムさまが〈決戦〉を戦った、古戦場」

「巨大ブラックホール、マルギン＝クリロクスの、重力圏」

「ハイパーな現象も、ゴッット」

「——回避だっ」

「とは、いえ～」

「《ジュール・ヴェルヌ》は、無理を承知の文脈跳躍、の後遺症で～」

「〈文脈改竄機〉も、火災発生・消火困難」

「安定化ホワルゴニウムも、サルクリットも、パー」

「重ねて、現実時のハイパー物理学的抵抗」

「なんとか、リニア駆動」

「4.5時間かけて、わずかに13光年」

「とあるソル型恒星の、周回軌道にたどりつきます」

「で」

「現状を、確認してみましょう」

「——ハイパー水晶を、かき集めても？」

「——行動半径80光年？」

「意を決して、ペリー・ローダン」

「救難信号など、発信」

「さらに」

「現状を、確認してみましょう」

「——乗員……ほとんど意識回復？」

「——でも？」

「——グッキー……いまだ、ストレンジネス衝撃で意識不明？」

「——エカトウス・アティモス殿も……意識不明？」

「——サイプロン種族のスフェリカー4名……死亡？」

「——超知性体アルケティムさまの〈監視柱〉……崩壊？」

「——女将軍カムコさん……回収したスペース・ジェットごと、行方不明？」

「ところで」

「——首領ボタウク以下、泥棒種族ラオソール200名と少しは……元気？」

「——連中には？」

「——《ジュール・ヴェルヌ》が、未来から来た、とか？」

「——未来に、帰ってしまった、とか？」

「——説明……してない……ぞ？」

「意を決して、ペリー・ローダン」

「ラオソール一党に、対峙します」

「が」

「——そんなコト、知っていたにゃ」

「——ウチの弟リムボクスは、情報盗むの得意だにゃ」

「——〈負の球体〉ハンガイの建設も、いっしょに阻止してやるにゃ」

「一枚上手」

救難信号をうけて、銀色の魚型宇宙船の船団、到着——

「——ワタシは、ヤコント種族のカストウン・オゴラス」

「——この船は、エヴォラクス防衛艦隊所属、高速巡洋艦《リリオ》です」

「カストウン・オゴラス——手足が細い、ヒューマノイド」

「エメラルド・グリーンの、肌」

「ワイン・レッドの制服」

「操る言葉は、〈力強き者〉たちの言語」

「——ヤコント種族は、200万年前～」

「——〈深淵の騎士〉ヴェイルトのイグソリアンさまに、お仕えて～」

「——以来、コスモクラートの仕事を、しているのです」

「——アナタは、〈深淵の騎士〉のオーラを帯びているから、信じましょう」

「——《ジュール・ヴェルヌ》の臨検も、勘弁しましょう」

「——でも」

「——《ジュール・ヴェルヌ》が、時間航行してきたのは、知っています」

「——そもそも～」

「——フレフレ、時間跳躍らしき現象を調査、に来たのです」

「かくして」

「ペリー・ローダンは、多くを語らぬまま」

「カストウン・オゴラスの手配で、事態はとんとん拍子」
 「——《ジュール・ヴェルヌ》は、レッカー移動しましょう」
 「テンダーに、積まれて～」
 「《ジュール・ヴェルヌ》は、エヴォラクスへ」

巨大工廠惑星、エヴォラクス——

「周囲には～」
 「ヤコント種族の防衛艦隊30万隻・監視要塞2000基」
 「立方体型に配置された、白色恒星8個の中央に～」
 「褐色矮星くらい……木星を思わせる、惑星ひとつ」
 「〈白界〉とか、いわれています」
 「地表は、一面、工廠だらけ」
 「高次な技術の、賜物で～」
 「重力は1Gと少々、酸素の大气」
 「地表は、10万1112区画に分割されて～」
 「1区画に、1種族」
 「軌道上には、1万2000基のステーション——区画を制御しているらしい」
 「区画と区画を隔てる壁は、高さ45km」
 「9箇所ほど、中心的な感じの工廠が、目につきます」
 「……」
 「カストウン・オゴラス、よどみなく」
 「——《ジュール・ヴェルヌ》の、着陸と修理を、申請します」
 「生産工程評議会の、生産工程最高検査官ディラメシュは～」
 「——軌道上で、待つがよい」

翌日——

「生産工程最高検査官ディラメシュは～」
 「投影像で、《ジュール・ヴェルヌ》を査察」
 「身長2.1m」
 「黒い瞳に、黒い髪」
 「筋骨隆々でも、高貴な雰囲気」
 「ペリー・ローダンから見た、第一印象は～」
 「——〈力強き者〉ケモアウク？」
 「という、感じ」
 「ペリー・ローダンと、しては～」
 「事情を説明・協力を得たい」
 「が」
 「ペリー・ローダンに、ついてまわる～」
 「〈深淵の騎士〉のオーラにも～」
 「〈コスモクラートの呪い〉にも～」
 「〈負の球体〉ハンガイ——〈混沌の勢力〉が目下建設中——にも～」
 「興味なし、な感じで～」
 「——予備区画への、着陸と修理を許可しよう」

惑星エヴォラクス、予備区画ゲレファント——

「予備区画ゲレファントには～」
 「《ジュール・ヴェルヌ》が、ぼつねんと繋留されて」
 「すぐに、天井はエネルギーで封鎖」
 「監禁同然」
 「——区画の中に、大、中、小、と門らしき施設が3つ？」
 「——トライポッド、というらしい？」

「——トライポッド1は、宇宙船用？」
 「——トライポッド2は、貨物用？」
 「——トライポッド3は、車両と歩行者用？」
 「——お隣りに通じるコードを、もらったぞ」
 「隣の区画フラブルには～」
 「フララムバー種族——熊っぽい——が、入居中」
 「……」
 「ところで」
 「《ジュール・ヴェルヌ》艦内では～」
 「——この非常用反重力装置？」
 「——たしか、壊れていたはず？」
 「——かちっ……ういいん」
 「——動くんだよな、コレが、また」
 「技術者たちが、怪奇現象に頭を抱えたり」
 「……」
 「と」
 「トライポッド3から～」
 「カストウン・オゴラス、来訪」
 「——同行、してください」
 「迎えのグライダーに、乗って～」
 「ペリー・ローダンは、都市ベリオサへ」

都市ベリオサ——

「三角形にそびえて、うずたかい形」
 「ペリー・ローダンに、いわせると～」
 「——古代中国の寺院的な？」
 「——ここが、傾斜都市ベリオサです」
 「警備員的なヒトたち——サトックス種族——が、うろろ」
 「——警備員的なヒトたちとか、生産工程最高検査官ディラメシュは？」
 「——送受信部なしの瞬間移動機能を、利用してる？」
 「——惑星規模のテレポート・システム？」
 「都市ベリオサの、中央には～」
 「——さしわたし30kmの、白い壁？」
 「ガラス鉄道で、しゅるしゅる、昇って～」
 「生産工程最高検査官ディラメシュの、事務所——都市上空4km——へ」
 「で」
 「生産工程最高検査官ディラメシュの、事務所には～」
 「立体映像仕掛けの、窓のようなモノ」
 「ペリー・ローダン、のぞいてみると～」
 「——都市中央の、白い壁の、内側？」
 「——全長7kmの円筒形のモノ？」
 「——コスモクラートの使者が良く使っている、コバルトブルーの転子状船？」
 「生産工程最高検査官ディラメシュ、自慢げに」
 「——中央工廠1号の内部、である」
 「——もうすぐ完成する、《ペンデュラム》なのである」
 「——1万年も手塩にかけて、建造しているのである」
 「そして、本題は事務的に」
 「——《ジュール・ヴェルヌ》には、所定の走査を実施中である」
 「——完了するまで、予備区画ゲレファントで、待つがよい」
 「——処遇は、それなりに、考えている、のである」
 「ペリー・ローダンと、しては～」
 「事情を説明・協力を得たい」
 「が」

「生産工程最高検査官ディラメシュは～」

「〈深淵の騎士団〉を、好きではないらしい」

予備区画ゲレファント——

「モンドラさんは～」

「快復したグッキーや、泥棒種族ラオソールを、お供に～」

「グライダー6機で、区画漫遊」

「——修理工廠クカラン……素敵ねー」

「——本当に、素敵だねー」

「——素敵だにゃー」

「グライダーの後部トランクには～」

「いつのまにか、ハイパー水晶が1.5kg」

「区画漫遊」

「——ホワルゴニウム？」

「——ホワルクリット？」

「——素敵だにゃー」

「ハイパー水晶は、合計10kgに」

「さらに、区画漫遊」

「——このエヴォ・チップって？」

「——通貨……かな？」

「——素敵だにゃー」

「区画漫遊は、大収穫」

「で」

「その間も～」

「《ジュール・ヴェルヌ》艦内では～」

「——高次観測装置〈カウンター型ウルトラ計測器〉が、使えるように？」

「——ホーク・コンヴァーターが、100km毎秒毎秒？」

「これらを、うけて～」

「《ジュール・ヴェルヌ》艦載機〈ネモ〉は～」

「——脱出路ヲ、検索シテイマス」

「——修理工廠クカランなら、宇宙への出入りも、自由だわっ」

「——それだっ」

かくして、エヴォラクス脱出作戦、開始——

「《ジュール・ヴェルヌ》は～」

「全長2400m、総重量1億8700万トン」

「で」

「トライポッド1は、宇宙船用……と、いいながら～」

「入り口は1330m×1060m、重量制限1億トン」

「——通過不能とか？」

「——連中は、思っているだろう？」

「が」

「《ジュール・ヴェルヌ》は、3パーツからなる合体宇宙艦」

「——分離っ」

「——転送・転送・転送っ」

「——合体っ」

「予備区画ゲレファントから、修理工廠クカランまでは、転送一瞬」

「合体するまで、たったの2分」

「グッキーが、制御ステーションを攪乱」

「する、隙に～」

「——緊急発進っ」

「45kmの壁を超えて、さらに加速・上昇」

「——がんばれ……もうすぐ、リニア駆動だっ」

「が」

「中間空間に逃げこむ、寸前」

「《ジュール・ヴェルヌ》の前に、何かもやもやしたモノが……」

「——！」

「乗員、意識喪失」

予備区画ゲレファント——

「《ジュール・ヴェルヌ》は～」

「警備員種族サトックスに、連れもどされて～」

「ふたたび、繋留」

「で」

「生産工程最高検査官ディラメシュが～」

「レポート・システムで、直接来訪」

「——もう、修理は、許可しない」

「——発進も、許可しない」

「——ここで、区画種族として、働くがよい」

「なんて、尊大な雰囲気」

「トライポッドの動力も、切断されて」

「《ジュール・ヴェルヌ》に漂う、あきらめの雰囲気」

「が」

「その時」

「——（なにを勝手なこと、言ってるのよっ）」

「と、キレた、モンドラさん」

「自分たちが、宝石とか現金とか、盗んだ罪は、ソレはソレ」

「手が、勝手に動いていたという」

「——ばっしっ！」

「生産工程最高検査官ディラメシュの、顔面に～」

「素手で一発、モンドラ・パンチ」

「生産工程最高検査官ディラメシュは～」

「肉体的には、鼻血を流し～」

「精神的には、極大のダメージ」

「逃げ帰る、のでした」

「……」

「で」

「その間も～」

「《JV2》では～」

「——このデーリアン原子炉？」

「——たしか、壊れていたはず？」

「——かちっ……ういっいん」

「——動くんだよな、コレも、また」

「技術者たちは～」

「コスモクラートの超工廠、エヴォラクスの奇蹟に～」

「ただもう驚嘆、するのです」

—— 以下、次号

[<http://www.perry-rhodan.net/produkte/hefte/1/2450.html>]

【関連サイト】

・ 出版社が運営するドイツ公式サイト [<http://www.perry-rhodan.net/>]